



発行：社会福祉法人 小渦会  
鳴門シーガル病院  
発行 者：理事長 鎌田 啓三  
住 所：徳島県鳴門市瀬戸町  
堂浦字阿波井57番地  
電 話：088-688-0011(代)  
F A X：088-688-0314  
U R L：http://k-seagull.jp/

# かもめ便り

## 鳴門シーガル病院の渡船(シーガル1号)



渡船乗り場は車でも通行可能!



前方に見える病院まで  
渡船で約2分間!



車椅子の乗船もサポート!



ベテラン渡船職員が乗  
船者を安全に誘導!

## 営繕便り 「避難訓練」

この写真は最近行われた避難訓練の様です。  
毎年、春と秋、年二回実施しておりますが、回を重ねるにつれて訓練の質と避難時のスピードが向上していると思います。

やはり普段からの訓練と心構えてだいじですよ。私自身も患者さま、職員の訓練と心構えを無駄にしないように、消防設備の保守点検を、もしもの時に備えて日々、心構えをもって保守点検していきたいと思ひます。

営繕 三森 俊明



消火訓練

# 『花の植え替え』



先日まで初夏に植えたマリーゴールドがとても綺麗に咲いていましたが、そろそろ冬春用の花に植え替える時季ということもあり、11月22日に患者さんと一緒に戸外活動部のメンバーで花の植え替え作業を行い、プランターや鉢に色とりどりのパンジーや葉ボタンの花を植えました。

これからすくすくと成長して更に色とりどりの花が咲き、みんなの心を和ませてくれることでしょう。

リハビリテーションセンター 斉藤 謙一

# シルバー大学OBとの交流



今年から、シルバー大学鳴門支部OBの皆さまとの交流がスタートしています。メンバー15人の方が来院され、当院で作業療法として取り入れている陶芸を体験していただきました。

このたび、メンバーの皆さまが慰問に訪れ、ハーモニカ演奏、銭太鼓、踊り等を披露してくれました。

患者さまもハーモニカの演奏に合わせて口ずさんだり、また、踊りの輪に入って一緒に踊ったりして、和やかな・楽しい交流ができました。

事務部 石田 博



## 「回転寿司&カラオケツアー」開催！



本年も恒例の病棟別遠足を実施しました。2病棟は、毎年「回転寿司&カラオケツアー」を企画しており、今年も例年通り実施しました。日頃は閉鎖的環境で療養されている患者さんですので、回転寿司やカラオケに行く機会は少なく「回る寿司」に大はしゃぎでした。お腹いっぱいになった後はカラオケに“参戦”し、大声で歌を唄い楽しい一日を過ごしました。来年も継続して実施したいと考えていますので、多くの方の参加をお待ちしています。

看護師 森上 臣樹



## 当事者が語る地域での暮らし



11月26日（火）午前10時30分～4病棟食堂で地域移行支援の一環とした「当事者が語る地域での暮らし」懇談会を開催しました。昨年、当院を退院されました谷間氏をピアサポーターとしてお招きし、約1時間に渡りご自分の体験談を語っていただきました。谷間氏から「退院してもなんとかやっけていけるよ。自分の好きな事もいろいろできる」との言葉に触発されたのか、入院患者さまから「食事の作り方がわからん」「調子が悪くなった時のことを考えたら心配」「買い物が1人でできん」等、退院に対して感じている不安な声を聴くことができました。

当事者から聞ける解決法は我々が繰り返す説明よりも説得力があり、懇談会終了後、個人的に質問されている患者さまもいらっしゃいました。

参加人数31名という数字の持つ意味を大切に、今後も患者さまに寄り添える支援を行っていかねばと思います。

地域連携室 津舟しのぶ



## 医療エッセイ



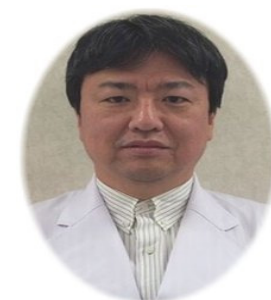
## ～ 機上の空虚論 ～

人生において結婚は大きな転機となる。まず結婚式なる一大セレモニーが盛大に行われ、新郎・新婦はその晴れの舞台の高揚した感情の中で、相手がとても素敵な人のように思えてくる。幸せな新婚生活をスタートできるか否かはそれを維持できるかどうかということにかかってくる。

ここである失敗症例を報告する。

新郎の名前はS。年齢は30歳前後で職業は精神科医。某年某月、某空港からヨーロッパの某国へと向かう新婚旅行中であり、式後の疲れもありエアラインの中で深い眠りについていた。途中機内で何かのアナウンスがあったが、あまりにも眠たかったので無視して寝ていた。その直後に突然、隣に座っている美しい(?)新婦に揺り起こされる。機内で急病人が発生したらしく、ドクターコールのアナウンスがあった模様。「あなた～、頑張ってるね～!!」と期待に満ちた目で見送られ、Sはふらふらしながら現場へ。そこには背の高い3人の欧米人がいた。髭の似合うドイツ人ドクター、彫の深いスウェーデン人ドクター、人のよさそうなデンマーク人ドクターという面々だった。座席でぐったりしている乗客はドイツ人だったので、お髭がかっこいいドイツ人ドクターが診ることになり、唯一の日本人ドクターSは映画の一コマでも観ているかのごとく傍観していた。幸い、「重症ではない」との彼の判断のもと、4人で協議してそのまま目的地に向かうようにキャプテンに進言した。「あ～、よかった、よかった。」とホッとしながら座席に戻ってきたSを待ち受けていたのは新婦の冷たい視線。「あ～、がっかりした。」と胸をえぐられるようなお言葉。「え～っ。」とのけぞる新郎。どうやら新婦の中には、Sはまさきに現場へ駆けつけ華麗に処置を施し、キャビンアテンダントや他の乗客から拍手喝采を浴び、そのお礼にと夫婦そろってビジネスクラスにアップグレードされる・・・という妄想(?)が浮かんだらしい。

その時を境にホカホカの空気は急速に冷め、辛く厳しい現実の日々が続くことになった。「新婚であればこそ夢見るワイフへの畏怖を常に念頭に置き、イフに備えなければならぬ。」と若い研修医にこの教訓の指導を続けるSがいる。



医師 澤田和之

## 【編集後記】

クリスマス&年末ムードも高まり、すっかり厚手のコート of 時期になりました。みなさまも風邪等をひかないよう、良いお年をお迎え下さい。

編集担当: 宮本裕二

社会福祉法人 小渦会URL



## 鳴門シーガル病院 交通案内

- JR鳴門駅から「北泊・堂浦行」徳島バスで堂浦(どうのうら)下車(所要時間20分)利用
- 病院直営渡船(所要時間2分)利 ☎088-688-0011(代)
- ◎ 渡船(無料)運航時間  
午前7時30分から午後5時15分まで定時(10分～30分おきに)運航しています。

